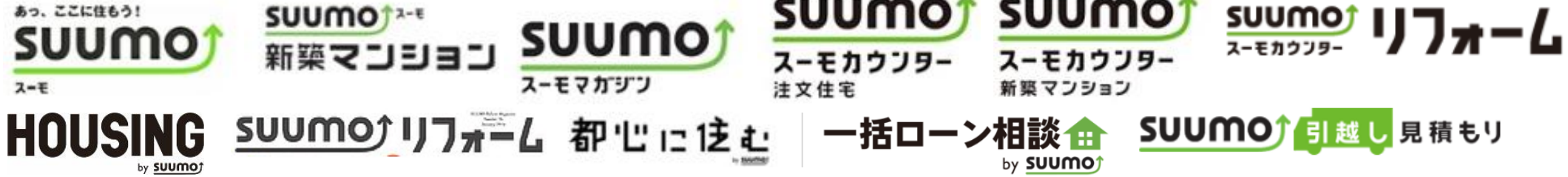


2019年トレンド予測  
住まい領域

設立 2012年10月1日  
 従業員数 1,768名（男性674名、女性1,094名） ※2018年4月1日現在  
 代表取締役社長 浅野 健  
 主な事業内容 住まい領域に関わる商品、サービスの提供  
 提供サービス例



## ◆トピックス

### 『SUUMO』におけるビッグデータ活用

『SUUMO』は、PC、スマートフォンをあわせると、月間約2,190万人の方に、ご利用いただいております。  
 サイト上で住まい探しの検討をされているお客様のデータを解析し、より分かりやすい物件紹介の仕組みや、新機能をリリースしています。  
 データと経験則を融合させながら、ユーザーに伴走する仕組みをより磨いていきます。



## ◆責任者の声

### 消費者に選ばれ続けるサービスとなるために

徹底的にカスタマー視点に寄り添い、SUUMOやリクルートグループでしか持ちえないデータを最大限に活かしながら、日々プロダクトの進化に取り組んでいます。  
 また、AR/VRをはじめとした新規テクノロジーを積極的に取り入れることで、カスタマーの方の「住まい探し」がより進化し、今よりももっとワクワクする体験になるような、イノベティブな新サービス創出にも、取り組んでいきたいと考えています。

ネットビジネス統括本部 統括本部長  
 秋山 純

従来

都心と田舎の2つの生活を楽しむ

# デュアルライフ (2拠点生活)



豪華な別荘



仕事を辞め、時間のある  
リタイア組

現代

都心と田舎の2つの生活を楽しむ

# デュアルライフ (2拠点生活)



安価で手ごろな  
空き家やシェアハウス



20~30代のビジネスパーソンや  
ファミリーがパラレルで実践

都心と田舎の2つの生活 = デュアルライフ（2拠点生活）を楽しむ人

# デュアラ

が増え、当たり前時代になっていく

従来は、豪華な別荘が持てる富裕層や、仕事がなく時間に余裕があるリタイア組が楽しむものだというイメージがあったデュアルライフ（2拠点生活）。

近年は、空き家やシェアハウスを活用して、20～30代のビジネスパーソンやファミリーがデュアルライフを楽しみ始めている。

憧れはあってもお金がかかるからムリなのではないか。そんなイメージに反して、安価で気軽に始められるサービスや取組みが登場しているほか、企業サイドもサービス提供に乗り出しており、今後さらにデュアルライフを楽しむ動きは広がっていくだろう。そして、多くの人々が当たり前に行う時代になっていくとみている。

私たちは、こうした都心と田舎のデュアルライフを楽しむ人たちのことを**デュアラ**と名付けた。

デュアルライフ実践者と興味がある人が、毎月、新宿で情報交換を行う「南房総2拠点サロン」。10月は約50人ものビジネスパーソンが集まり、その魅力について語り合った



従来

郊外ニュータウンの戸建



ゆとりある間取り

緑豊かな生活



現代

都心の駅近マンション

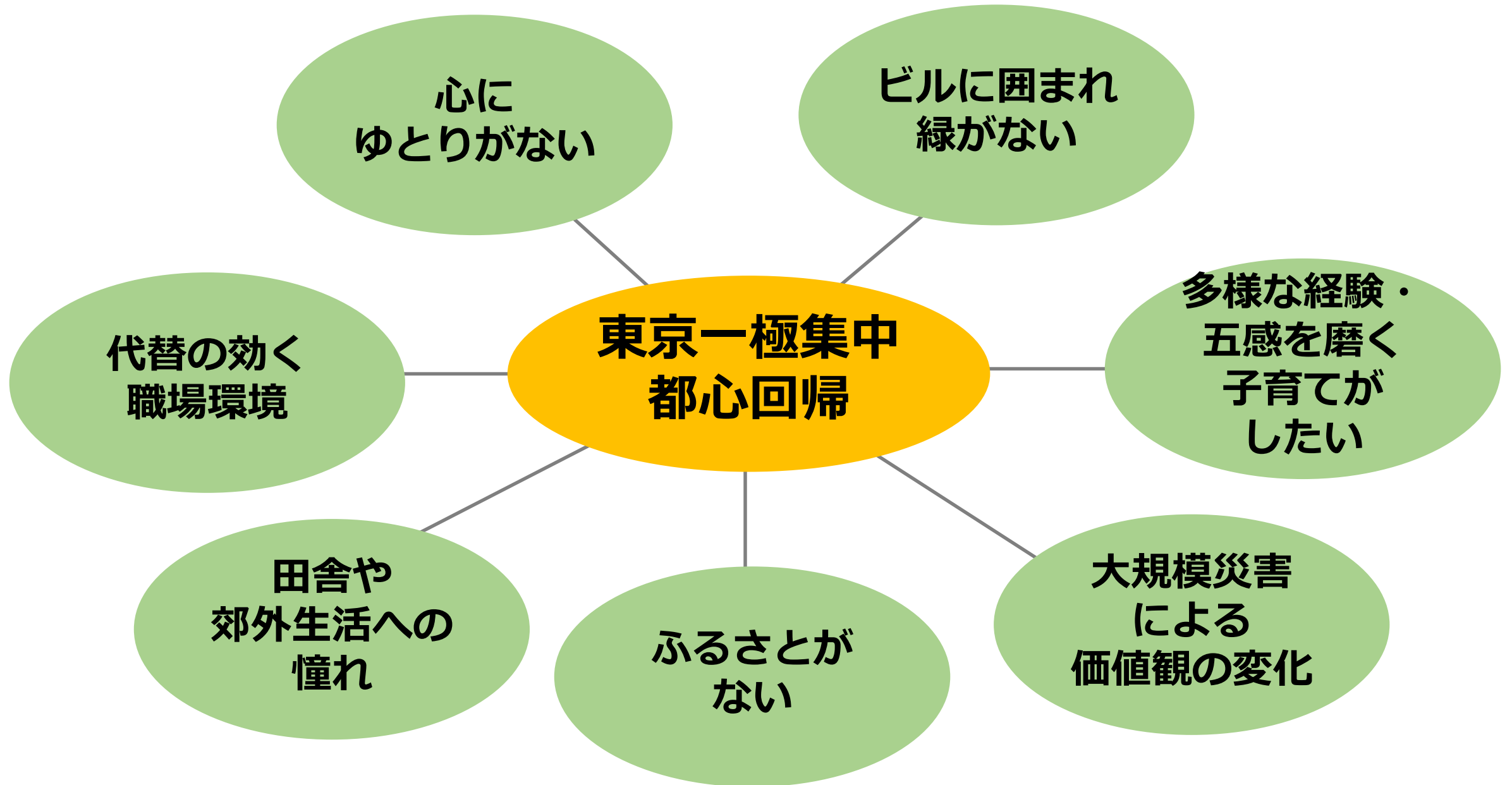


部屋の広さやゆとりより、利便性重視へと変化

【新居に求めた暮らし方イメージ】（2007年→2017年）

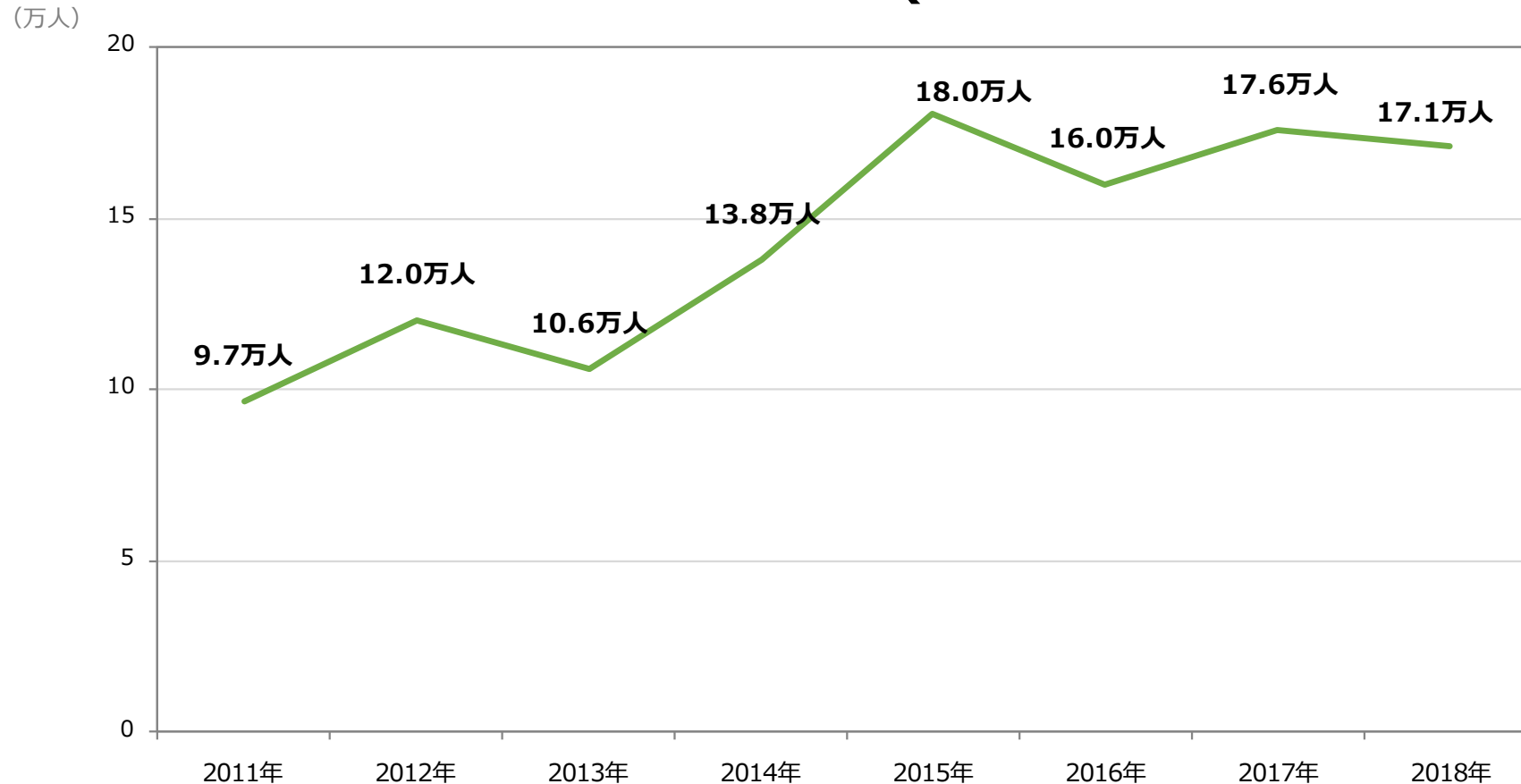
- ・ 都心に近い +5.7ポイント
- ・ 仕事や通勤に便利 +8.5ポイント
- ・ 居住空間にゆとりがある -7.5ポイント
- ・ 心のゆとりが得られる -2.5ポイント

出典：リクルート住まいカンパニー「2017年首都圏新築マンション契約者動向調査」（N=4768）





## 【デュアルライフ開始者(推計) ※1の推移】



※1 デュアルライフ開始者(推計) :  
全国の20~60代男女の人口(平成30年6月時点)7,914.8万人に、  
各年における全国の20~60代男女の2拠点生活開始者の割合を乗じて推計した  
出典:「人口推計」(総務省統計局) <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

※2  
本データは今回調査対象となった、現在2拠点生活を実施あるいは中止している全国の20~60代の男女に対して  
2拠点生活を開始した時期を聴取し、その結果を用いて実際の2拠点生活開始者数を推計したものであり、『現在  
も2拠点生活を行っているが加齢などで今回調査対象から外れたもの』などは推計の上で考慮していない

出典:リクルート住まいカンパニー  
「デュアルライフ(2拠点生活)に関する意識・実態調査2018」  
2011年以降に2拠点生活を開始した、現在2拠点生活を実施あるいは中止  
している全国の20~60代の男女(N=725)

従来

現代

(例)

買う

- 高額な別荘を購入

【世の中変化】

シェア文化の浸透

民泊の合法化

地方物件の価格低下

空き家 増加

泊まる

- **月1.5万円**~ホステル泊まり放題
- **1泊3,500円**で宿泊可能なコリビング施設

借りる

- 通常の賃貸物件。  
エリアにより**月2万円程度**から
- **年42万円**で、宿泊施設つき貸農園

譲り受ける

- 親や親族などから、相続する

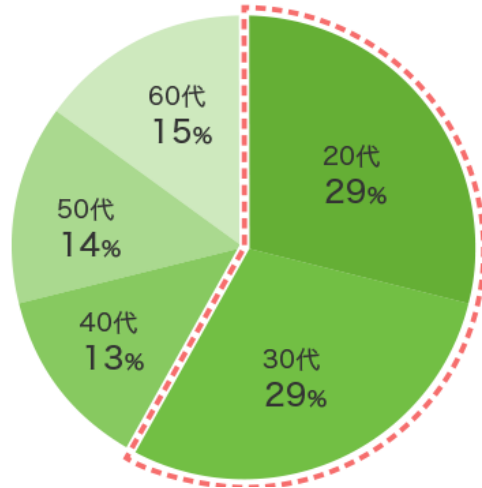
(安く) 買う

- エリアによっては大敷地の古民家が**300万円程度**  
※仲間と**共同購入**で**一人50万円**で実現する人も

貸す

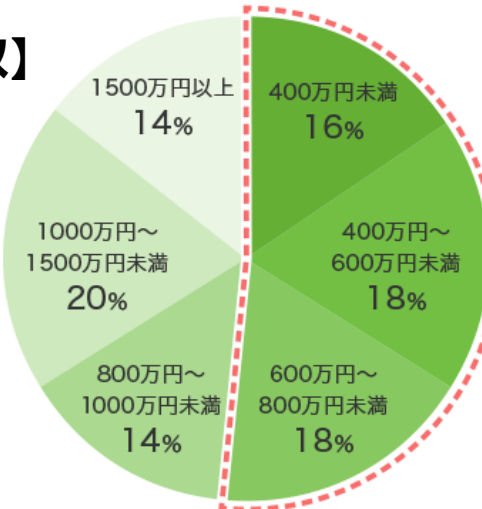
- 使わないときは、民泊として貸し出す

## 【年代】



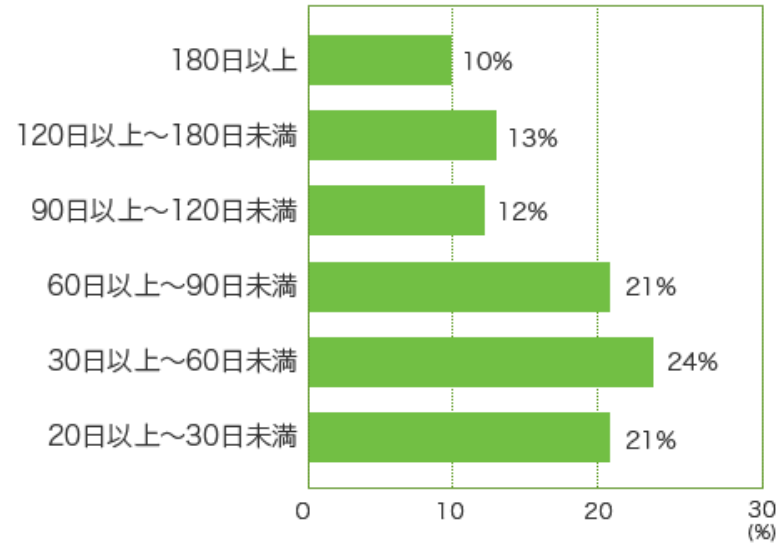
**20-30代で5割を超える**

## 【世帯年収】



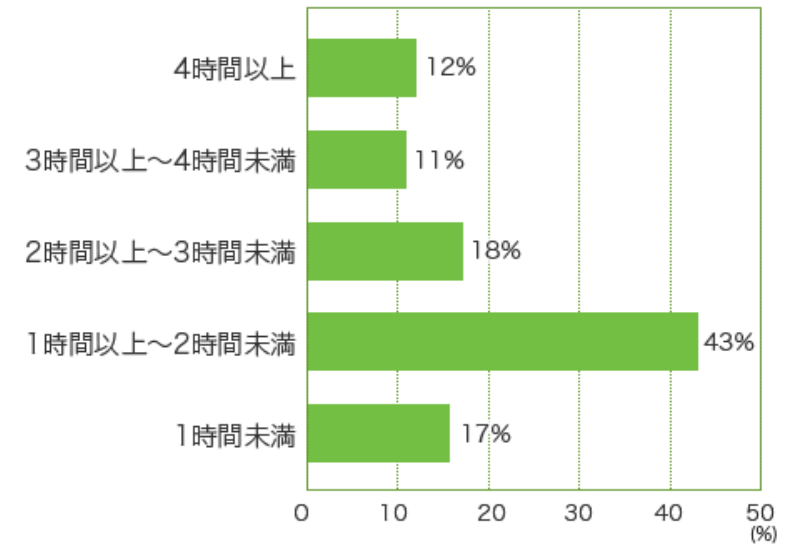
**800万円未満が約半数**

## 【2拠点目への年間滞在日数】



**月平均2～5日の滞在が半数弱を占める**

## 【2拠点目への移動時間】



**2時間未満の近場が約6割**

出典：リクルート住まいカンパニー「デュアルライフ（2拠点生活）に関する意識・実態調査2018」

現在2拠点生活を実施している東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県に在住の20～60代の男女（N=298）

※以下は対象から除く：2拠点生活の目的が仕事(通勤)や介護・療養、2拠点の年間滞在日数が20日未満、世帯構成員に投資家を含む、世帯年収が100万円未満、2拠点生活開始時期が2007年以前、主な拠点および2拠点目ともに1都3県・2府1県以外、2拠点目初期コスト・維持費ともに0円

※構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にはならない

## デュアラーの目的 (デュアラータイプ)

### 趣味満喫 デュアラー



サーフィンや農業などの趣味を楽しむために、よく通うエリアがあったが、拠点を持ってより深く楽しみたい。

### 自然癒され デュアラー



とにかく都会の喧騒から離れて、自然に触れたり、のんびりした時間を過ごしたりして、癒されたい。心を潤したい。

### ふるさと デュアラー



都会育ちで故郷と呼べる場所がない、もしくは自分や配偶者の故郷を大切にしたい。地元の人と交流したいという願望も。

### プレ移住 デュアラー



いつかは田舎に移住したいと考えているが、地域コミュニティになじめるかなど、移住前に試してみたい。

### のびのび 子育て デュアラー



自然に触れるようなさまざまな体験をさせたり、多世代交流で、多様な価値観に触れるような、のびのびとした子育てをしたい。

### 地域貢献 デュアラー



代替の利く職場環境で、自己承認欲求が満たされない。東京で培ったスキルを活かして、地方で地域貢献し自身の存在意義を感じたい。

## のびのび子育てデュアラー

〈神奈川・横浜 × 千葉・南房総〉

【借りる】月約2.5万円で、1500坪の物件



農作物を育て失敗する経験が食育に  
多世代とのつながりは、まるで大家族

- 名前：Kさん
- 家族：本人35歳・妻・子ども（7歳・5歳）
- 職業：IT系企業の営業
- きっかけ：ヤマナハウスでコミュニティ形成後  
近くの賃貸物件を借りる。
- 滞在日数：本人は毎週、金曜夜から日曜朝まで  
子どもは月1ペース。

## 地域貢献デュアラー

〈神奈川・川崎 × 長野・小布施〉

【泊まる】1泊3,500円で、コリビング施設



地域の役に立てる感覚と、刺激的な価値観を持つ  
人とのつながりは、都会生活だけでは得られない

- 名前：Mさん
- 家族：本人35歳・妻38歳
- 職業：ブランドコンサル、デザイナー
- きっかけ：東京の仕事で得たスキルを活かして、地  
域貢献につなげたいと、小布施を盛り上げるための  
アイデア会議に参加。
- 滞在日数：月に1度、土曜朝から日曜まで滞在

## ふるさとデュアラー

〈東京・渋谷区 × 山梨・身延〉

【相続】祖父の築40年余りの家を譲り受け



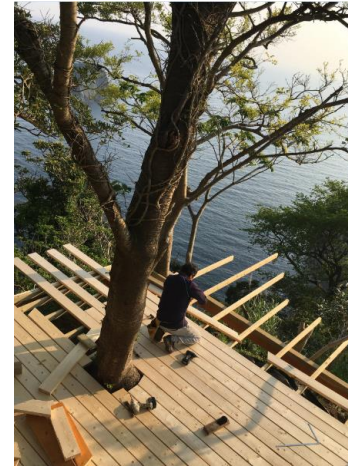
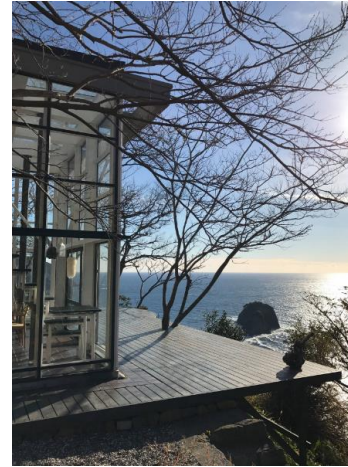
疎遠だった高校の友人などとの交流が復活。  
料理やDIYなど、新たなことへの挑戦も！

- 名前：Hさん
- 家族：40代
- 職業：ライター
- きっかけ：東日本大震災をきっかけに、ふるさとを大切にしたいと思い、祖父の家を譲り受ける。
- 滞在日数：月に1度、週末過ごす。友人も自由に使えるように鍵を渡し、多種多様な人が集まる場に。

## 自然癒されデュアラー

〈東京・吉祥寺 × 神奈川・南伊豆〉

【買う&貸す】約900万円で別荘購入、民泊利活用



自然に触れるだけで、生き返るような感覚に

- 名前：Sさん
- 家族：本人30代前半・夫
- 職業：映像関連
- きっかけ：自然あふれる環境に家を持ちたいと、古い別荘を購入。地元の大工さんやDIYで蘇らせる。
- 滞在日数：月に1度程度、思い立った時に。使用しない時は、民泊で利活用。今年は250万円の収入見込みで実質負担を軽減。

## 「里山縁組プロジェクト」

千葉市マンション  
ブラウシア



群馬県の農村  
川場村



- ◆バスツアーにて里山体験プログラム
  - └田植え、リンゴ狩り、郷土料理作り、古民家体験etc
- ◆B B Q、クリスマスのコラボディナー
- ◆マンションでの川場村マルシェ（定期開催）

→ 「第二の故郷として」自由に行き来する関係を目指す



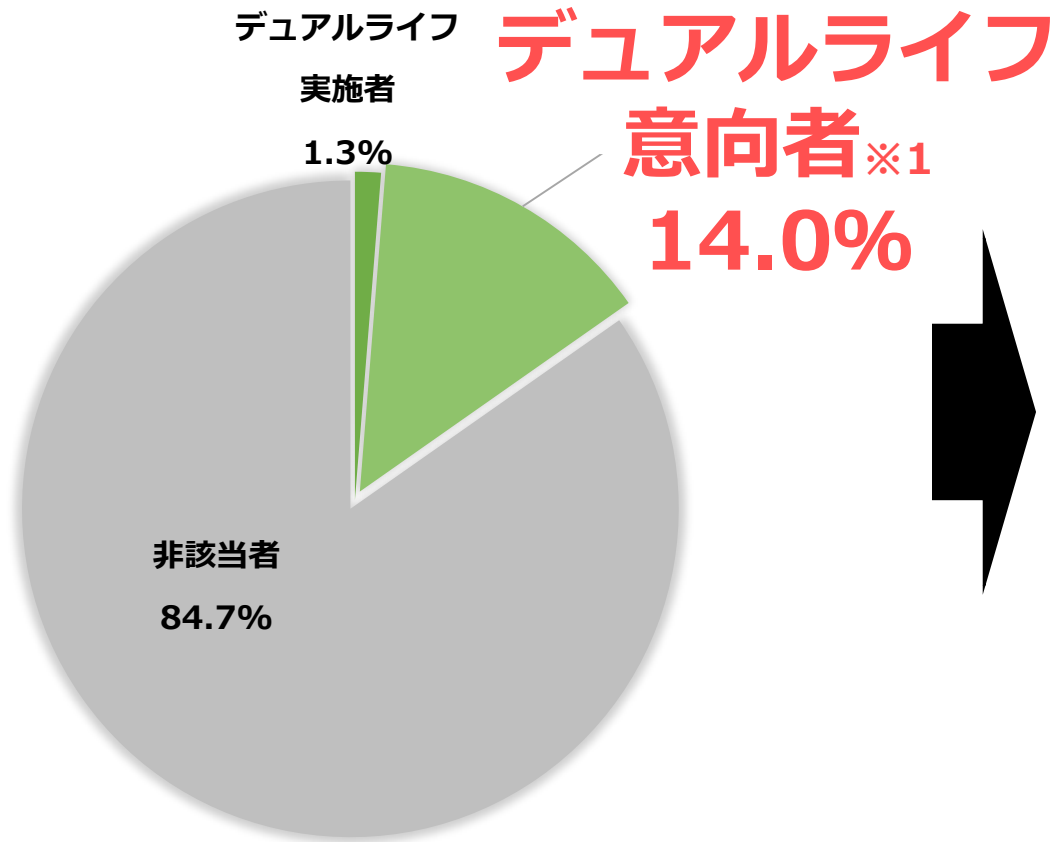
## 徳島県では、首都圏など3大都市圏の公立小中学校に通う子どもが一定期間、徳島の小中学校に通うことができる「デュアルスクール」を2016年度から実施



児童・生徒が地方と都市の2つの学校を行き来し、異なる環境での学びや生活を体験することにより、学校の活性化や片方の生活だけでは得られない多様な価値観・視点を持った子どもの育成が期待される



【デュアルライフ実施者・意向者の割合】



デュアルライフ意向者 推計

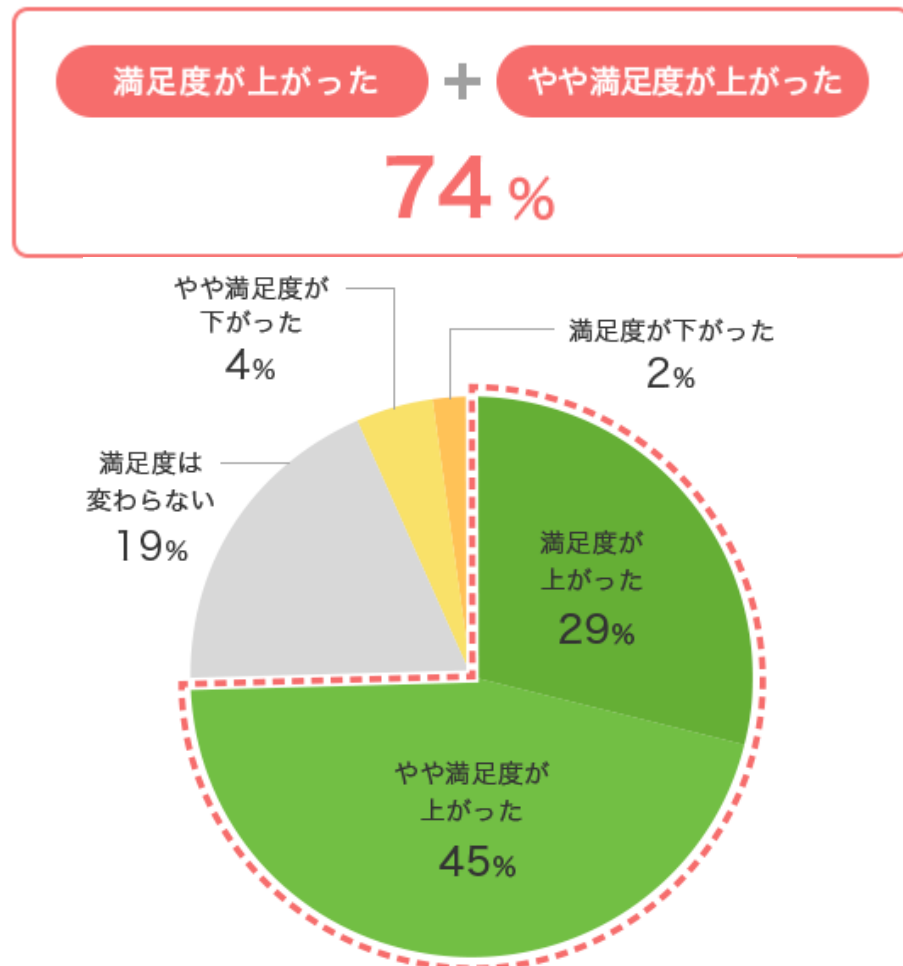
約1,100万人※2

※1 デュアルライフ意向者：  
デュアルライフ（2拠点生活）について、「今後したいと考えて、具体的に拠点探しなどの行動をしている」、「具体的な行動には至っていないが、今後したいと考えている」、「なんとなく興味がある/上記説明を見て興味を持った」のいずれか回答者

※2 デュアルライフ意向者 推計：  
全国の20～60代男女の人口(平成30年6月時点)7,914.8万人に、全国の20～60代男女の2拠点生活意向者割合14.0%を乗じて推計した  
出典：「人口推計」（総務省統計局） <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

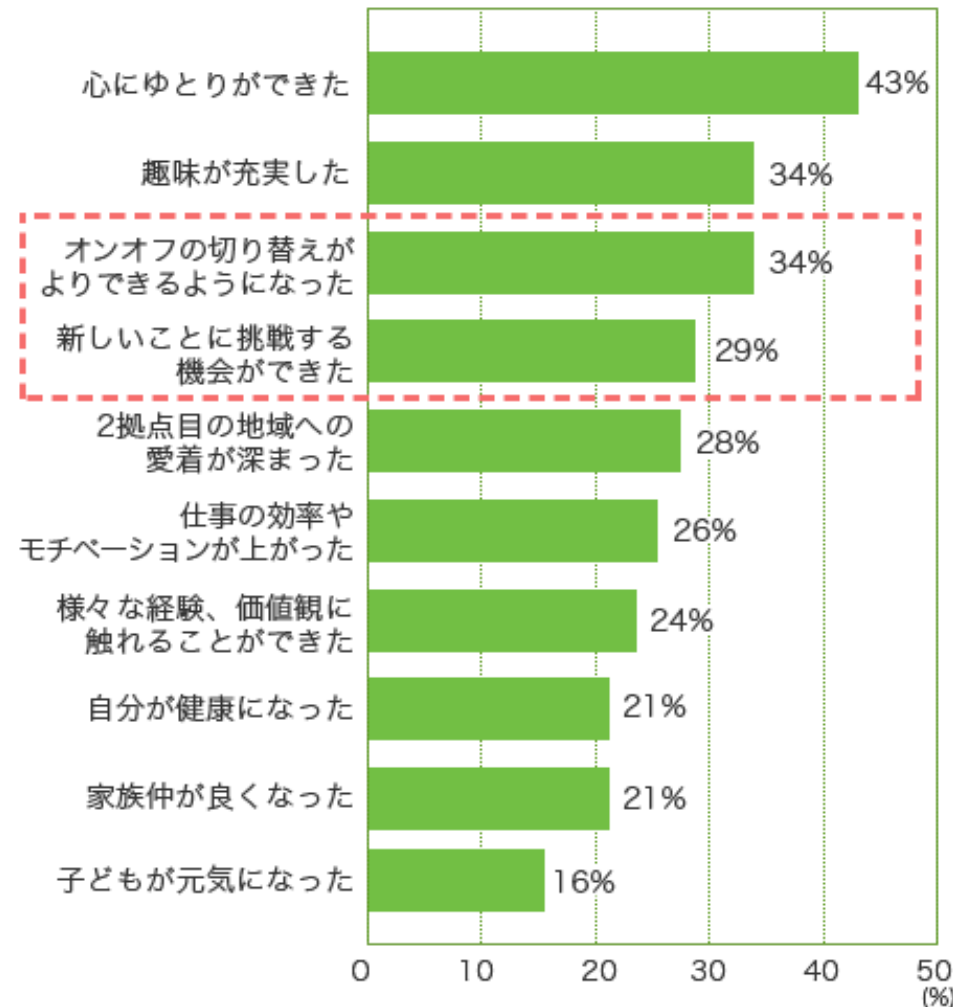
出典：リクルート住まいカンパニー  
「デュアルライフ（2拠点生活）に関する意識・実態調査2018」  
全国の20～60代の男女（N = 50,000）

## 【デュアルライフ実施前後の生活満足度の変化】



## 【デュアルライフ実施後の変化】

※変化内容TOP10を掲載



出典：リクルート住まいカンパニー「デュアルライフ（2拠点生活）に関する意識・実態調査」

現在2拠点生活を実施している東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県に在住の20～60代の男女（N=298）  
 ※以下は対象から除く：2拠点生活の目的が仕事（通勤）や介護・療養、2拠点の年間滞在日数が20日未満、世帯構成員に投資家を含む、世帯年収が100万円未満、2拠点生活開始時期が2007年以前、主な拠点および2拠点目ともに1都3県・2府1県以外、2拠点目初期コスト・維持費ともに0円  
 ※構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にはならない

出典：リクルート住まいカンパニー

「デュアルライフ（2拠点生活）に関する意識・実態調査2018」  
 左図【デュアルライフ実施前後の生活満足度の変化】にて  
 [満足度が上がった]あるいは[やや満足度が上がった]回答者（N = 221）

## 都会暮らし



豊富な  
仕事の選択肢

生活利便性

多様な教育  
プログラム

キャリアアップ  
の機会



# 豊かな生活

## 田舎暮らし



新たなことへの  
挑戦

多世代・多様な人  
とのつながり

豊かな  
自然

満たされる  
自己承認欲求

趣味



都心と田舎の2つの生活 = デュアルライフ（2拠点生活）を楽しむ人

## デュアラ

が増え、当たり前時代になっていく

従来は、豪華な別荘が持てる富裕層や、仕事がなく時間に余裕があるリタイア組が楽しむものだというイメージがあったデュアルライフ（2拠点生活）。

近年は、空き家やシェアハウスを活用して、20～30代のビジネスパーソンやファミリーがデュアルライフを楽しみ始めている。

憧れはあってもお金がかかるからムリなのではないか。そんなイメージに反して、安価で気軽に始められるサービスや取組みが登場しているほか、企業サイドもサービス提供に乗り出しており、今後さらにデュアルライフを楽しむ動きは広がっていくだろう。そして、多くの人々が当たり前に行う時代になっていくとみている。

私たちは、こうした都心と田舎のデュアルライフを楽しむ人たちのことを**デュアラ**と名付けた。